

イザヤ 43:18-21

18 先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。

19 見よ、わたしは新しいことを行おう。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。

20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、荒れ地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。

21 わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える。

序文

1981年3Mという会社の商品開発部の平社員だった「アーサー・フライ」は、教会の聖歌隊で奉仕し、特に聖餐式があるときは、ソロで特別賛美もしていました。その年の年末の聖餐式でも、特別賛美の曲のページをすぐに開けるように、聖歌の中間に紙を挟みこんで、印をつけておきました。しかし、特別賛美の出番が来て聖歌を開いた時に、挟んでいたはずのメモ用紙が落ちてしまい、歌う曲のページを見つけれず、慌てたあまり、その時突然頭に浮かんだ賛美を歌ってしまいました。聖歌隊席に戻った彼は、ふとあることを考えました。接着力があまり強くない接着剤をメモ用紙に塗っておけば、いつでも貼ったり剥がしたりできる、というアイデアが浮かんだんです。

そして、年が明けての仕事初めの日、彼は会社に出勤するやいなや一時的に使えるながらも、その後何度も使うことのできる接着メモ用紙を開発し、世界的に爆発的な反応を呼び起こしました。“ Post it ”というこの商品は全世界的に必要な不可欠な事務用品となったのです。

神様が一つのアイデアをくださり、それが世界的シンボルとなったんです。このように、神様は思いもよらない新しい事をなさる方だということを信じましょう。今日、そしてこれからも、神様が皆さんの人生において、新しい事をなさることによって、皆さんがたくさんの祝福を受け取ることができるよう切に願います。皆さんがどのようにするときに、神様が新しい事をなされるのかを学んでいきましょう。まず18節です。18 先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。

1) 誤った過去を投げ捨てる必要があります。心理学者“サミュエル・ジョーンズ”によると、人々は過ぎさった過去を最も考えて生きると言います。その中でも、暗かった過去、失敗した過去、悲惨だった過去をいつも考えながら生きる人が40%にもなるそうです。また、傷を受けたことに怒り、どう復讐しようか考えながら生きる人が12%。そして、実現不可能な虚しいことを考える人が30%。健康に関する過剰な心配をしながら生きる人が10%にもなりますが、明るい未来を夢見ながら生きる人はたったの8%だったと言います。

このように、私たちの考えを過去に留まらせるのは、サタンです。サタンは、私たちの魂、すなわち思考や感情を攻撃し、自分の影響下に置くためにいつも私達を過去に縛り付けようとします。なので、パウロはこう言うのです。

(ガラテヤ2：19－20) 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

パウロは、罪の塊である私の以前の自我は、キリストと共に十字架で死んだことを告白し、そしてこれからはイエスの命によって、イエスのために生きることを告白しています。教会で、この自我が死なずに生きている人が一生懸命働くと、必ず教会で問題を起こします。私は牧会者として、教会で熱心に早天祈祷会に出て、熱心に奉仕する人が信仰の良い人だと思っていましたが、引退してから気づいたのは、自我が十字架によって死なずに、熱心に祈り、また熱心に奉仕する人は、イエスのために生きているのではなく、結局のところ自分が認められたくて一生懸命頑張るということです。なので、パウロは「私は日々死んでいます」と告白するのです。

コンピューターの長所の一つであり、特別な機能は“リセット”機能です。つまり、間違ったものを消し、新しく始めることができるということです。このように、私達も後悔にさいなまれるほどの過ちを犯してきた自分の自我は、すでに死んだということを告白し、自我を捨てることによって、私の内におられるイエス様が新たなことをなせるようイエス様に扉を開けることを切に願います。

(19, 20節です。) 19 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を

設ける。

20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、
荒地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。

2) 新しいことをなさることを信じましょうということです。

本文は、イスラエルの民をバビロンの捕虜から連れ帰るという希望のメッセージです。捕虜から戻ってくる民たちのために、荒野に道を作り、砂漠に川を流し、主が選んだ者たちに飲ませると言います。また、イスラエルの祝福を通して周辺の隣人や動物たちも祝福を受け、主をあがめるようになるというのです。選んだ者とは誰のことでしょうか？

神様の約束を信じ、神様のところへ戻ってきた信徒には、命の水が溢れ流れるようにし、飲ませると約束してくださっています。19 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。

20 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、
荒地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。

約束の御言葉を本当に信じなければならないということです。聖書は、信仰は聞くことから始まる（ローマ10：17）と言います。まず主の言葉を聞くことが一番最初にやるべきことです。#主は、外交官だった私をそのように変えられました。私が韓国外交部・日本課長だった当時、かねてからの問題だった在日3世法的地位協定の改正交渉の改正交渉のために、当時の外交官行商、毎晩日本大使館の職員たちとクラブでお酒を飲みながら2年半ぶりに妥結しました。午前3時まで交渉し、妥結したことを祝うために早朝6時までお酒を飲み、朝8時に起き、主日だったので9時の礼拝に出席し、賛美の時間に立ちあがって賛美しようとしたら、いきなり妻が私の口をふさいで叫びました。「執事ともあろう人が神様を賛美するのではなく、信徒たちを躓かせようとするのですか？」私の口からお酒のニオイ、タバコのニオイがしてたからです。私はその瞬間、神様にハンマーで殴られたように座り込み叫びました。「主よ、私は執事なのに、なんでこんなふうに変われないんでしょうか？どうやったら変われますか？」その瞬間、私の心の中で主はこう言われたんです。「私がすべての答えを聖書を通して語った。」

次の日から私は、聖書を通読しはじめましたが、とても難しくレビ記で諦めてしまいました。そんなある日、ドゥランノ聖書通読セミナーの広告を見て申し込み、

地図を書く方法と、聖書の構造について学んだ後、聖書の全体像を見ることができました。その後、しばらくして中国大使館の公使として就任し、韓国人教会で青年部長を引き受けましたが、牧師先生が聖書を教えなさいというので、スタディーグループを作り、歴史書に沿って、天地創造から終末までの神様の導きを歴史へとつなげることができました。恵みのうちに青年たちと聖書を通読し、研究していく途中、ステージ4の胃がんという生死の境にたち、手術を受け、6ヶ月間抗癌剤治療の苦痛に耐え、御言葉を伝えたところ、主は私を癒やしてくださいました。そして、外交部の非常局長に転任していただき、ソウルオンヌリ教会で“聖書の脈つかみ”セミナーを開いたところ、韓国の教会の歴史史上初の牧師でもない平信徒のセミナーに1000人以上の人が参加するという記録をたてました。

その後、ニュージーランド大使として赴任したところ、すでに外国の教会にも知られていて、大使館はウェリントンにあるのに、韓国人ディアスポラが密集して住んでいるオーランド韓国人教会連合会で、私に毎主日の午後に飛行機に乗ってきて、聖書通読セミナーを導きなさいと言われ、8ヶ月間毎週飛行機で往復しながら聖書通読セミナーを導きました。

その後、駐米ニューヨーク総領事に就任後は、ニューヨーク最大の韓国人教会で主日の午後4時から集会で、毎回1200人が参加する聖書セミナーを開くことができました。ところが、ニューヨークには約50万人規模の韓国人が住んでいますが、私はアメリカの仏教徒がこれほど多いとは思ってもみませんでした。仏教徒たちが国を代表する公職者の特定の宗教布教行為に反対するデモを行ってきたのです。そして、毎日新聞と放送を通して「文俸柱大使を破門し、ただちに送還しろ」

という抗議をするせいで、多大な迫害を受けましたが、当時ハ牧師と話し合った結果、聖書セミナーが、十字架を背負い死んだ後復活することを信じ、中断することとなりました。その結果、私の弟子たちが10年以上たった今もニューヨークで聖書の脈セミナーを継続していて、講義を本で出版でき、日本語版でも出すことができました。一方私は、毎朝早朝に教会へ行き、早天祈祷会を始めてからすでに26年目となりました。祈りの中、主は私を牧師へと召していただき、その召しに従い過去10年間オンヌリ教会の牧師として、大阪と東京で働き、70歳で引退した後、現在はG&M財団理事長として、聴くドラマ聖書を製作し、一緒に聖書を読もう・通読運動を行っています。私の人生の中で、常に新たな事をなされた主を賛美し、皆さんにも同じ恵みがありますよう切に願い祈ります。